

市場の心理学

〈上〉

株価や為替はなぜ動くのだろう。もちろん答えは一つではない。経常収支や企業業績といった材料が影響を与えるし、金融政策や政治にも左右される。そんななか、最近ひととき注目されるのが市場心理だ。悲観と楽観、恐怖と期待……。投資家の心の振幅がマーケットを突き動かす局面が増えている。

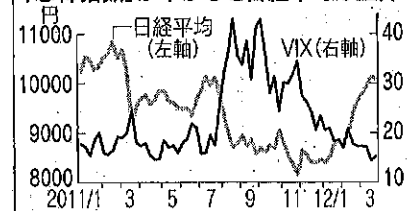
年明けから始まった世安が高まり、値動きが激界的な株高。その転機をしくなると上昇するのでいち早く示唆した指標が別名は「恐怖指数」。20ある。シカゴ・オプション取引所が算出するVIX(ビックス)指数だ。

指標が商品品化

VIXの値は米国株の値動きの激しさ(ボラティリティ)に応じて変化する。投資家の迷いや不

30割を割り込み、今年1月には20割を下回った。VIXの低下、つまり市場心理の好転に促されるように株高が鮮明になり、「VIXの影響力を見つけた」(ヘッジファンド関係者)格好だ。この指数に連動する先物取引は昨年の売買代金が3千億。5年間で約

「恐怖指数」が下がると日経平均は上昇



恐怖と驚き 値動き増幅

50倍に膨らんだ。「恐怖」という人間心理の動きは単なる指標にとどまらず、今や人気の金融商品にもなっている。

人工知能を研究する東京大学の松尾豊准教授は、昨年、ゴールドマン・サックス出身の古庄秀樹氏と一風変わったファンドを旗揚げした。

来る日も来る日も、株式投資に関する何千ものブログを分析する。不安、と松尾氏。

失敗、損、期待、楽観、一にあふれる投資家の感情表現を分析し、投資戦略を決めている。運用資産は数千万円に増えた。

だが、移ろいやすく、高と円安を呼び込んだ。著名投資家ジョージ・ソロスの持論は「市場は感情と印象で動く」。

なぜ心理が注目されるのか。リーマン・ショックや欧州危機は「市場がパニックになると、伝統的な投資尺度は通用しない」ことを浮き彫りにした。2月初めの同社の調査では、日本株は世界の機関投資家にとって「今後1年間で最も投資したくない市場」だった。ここ

踏み切った後の日本株上の分析システムを開発した東京大学の松尾准教授(東京都文京区)。

こうした手法は「ソーシャル・ネットワーク・ファンダ」と呼ばれ、欧米でも模索が始まった。ロンドンを拠点とするデータウェント・キャピタル・マーケットツはツイッター・円相場……。心の揺れはときに極端な値動きをもたらす。経済の姿は変わらなくても、緩和という視した投資戦略は描きづらくなっているのだ。

だが、移ろいやすく、高と円安を呼び込んだ。著名投資家ジョージ・ソロスの持論は「市場は感情と印象で動く」。

「海外投資家のメインドが百八十度変わった」。メリルリンチ日本証券の菊地正俊チーフ株式ストラテジストは、2月14日を上げかねない危うさまで日銀が追加金融緩和に秘めている。